

平成27年度芸術士プラス活動報告

志よう
がにするん

平成27年度高松市芸術士プラス活動報告

まよ
う
がにまるん



目次

- P.05 ご挨拶
- P.06 芸術士プロフィール
- P.07 芸術士とは
- P.08 中野保育所
- P.09 高室保育園
- P.10 坂出一高幼稚園
- P.11 高松東幼稚園
- P.12 財田保育所
- P.13 財田幼稚園
- P.14 平成27年度参加施設・参加芸術士
これまでの活動
- P.15 先生に聞きました！印象に残っている子どもの言葉



芸術士活動報告に寄せて

芸術士派遣事業は、北イタリアのレッジョ・エミリア市で始まった戦後の幼児教育プロジェクトを真似て、平成21年春に高松市に提案し、その秋、共に模索しながら8人の芸術士で始まり、本年7年目22人の芸術士による活動に成長しました。

美しい瀬戸内の島々がそれぞれ違うように、子どもたち1人ひとりも顔姿以上にそれぞれ違った個性で満ち溢れています。21世紀「子どもたちの100の言葉」と題して紹介されたレッジョ・エミリアからの展覧会は、まさしくこの個性と多様性の尊重を幼児教育のお手本として啓蒙した催しでした。子どもの頃に本来備えているはずの素晴らしい個性の芽。しかし、だんだんと教育を受けながら、輝きを失っていくことも、現代の反省です。未来をどう創るか？子どもたちの好奇心にこそヒントは隠されているのかもしれない。

今、民族や文化宗教の問題で起こっている紛争も、違いや多様性への寛容という生き様しか、融和と解決の道は残っていません。それは日本に存在している、多彩な文化を受け入れ独自に昇華してきた極東島国の歴史と智恵のなせる成果だとも言えるでしょう。個性を大切に慈しむ。個々に宝石のような宝物がある。それを大切に見つけ、磨くことが、最も大事で尊いことであろうと、確信しながら、我々はこの事業を進めています。

人は文化や風土の違いに魅了されて、冒険の旅へと船を漕ぎ出して行きました。北イタリアのヒントから、極東日本の四国高松での7年目の実践となり、今後、未来の希望を皆さまと一緒に創造できれば、70年前に立ち上がったイタリアの先輩に微笑んでいただけると妄想しています。

NPO法人アーキペラゴ 代表理事 三井文博

Archipelago (アーキペラゴ) は多島海・群島 (瀬戸内海のような空間) という意味の英語です。

芸術士プラスプロフィール

合田 知世



専門
インスタレーション・
絵画
芸術士在籍期間
平成25年4月～

長谷川 隆子



専門
油絵・彫刻・
インスタレーション
芸術士在籍期間
平成27年4月～

松尾 由美



専門
洋画
芸術士在籍期間
平成25年4月～

谷 由貴



専門
染織・
美術家アシスタント
芸術士在籍期間
平成21年10月～

芸術士とは

芸術士は、それぞれが絵画、彫刻、染織、身体表現、ファッションなど、さまざまな専門分野を持ったアーティストです。彼らは継続して同じ施設に通い、専門知識を活かして子どもと表現活動を行います。定められたプログラムは存在せず、保育の専門家と協力しながら、素材やテーマから学び、発見し、子どもたちの発想と想像力を最大限に引き出す環境を作るのです。アーティストならではの視点で子どもの可能性を見出すことも芸術士の役割です。『『評価される』表現を『学ばせる』』のではなく、一緒に表現を楽しみ「あなたの絵が、色が好き」と、子ども自身と表現をまるごと受け入れることで、子どもは一枚の紙に堂々と自分の責任で何かを描き上げる強さと、自分の個性や考えを表現する力を身に付けていきます。

結果を求めません

子どもの関心はめまぐるしく移行していきます。絵本を読んでいる途中で、踊り出したり、描いていた絵を突然ハサミで切り刻んだり。大人の求める結果が、子どもたちにとっての正解とは限りません。芸術士は、結果ではなく、過程を大切にします。

子どもたちのサポーターです

子どもたちは何かを発見したり、感動したりしたとき、それらを他者に伝えたいという気持ちに溢れます。芸術士は、子どもたちそれぞれの個性を尊重し、自らが考え、工夫し、伝える力を引き出すサポートをします。

子どもたちと社会を繋ぎます

芸術士は、子どもたちとの活動のドキュメント（記録）を制作します。ドキュメントとは単なる子どもたちの活動の記録ではなく、子どもたちの社会の中での存在価値を示し、子どもたちが創る未来の社会を垣間見せるものです。

子どもたちのこころとちからを大切にします

こどもはひとりひとりが独自の世界を持ち、外の世界とつながりたいという思いを持っています。だからこそ芸術士はこどもの自由な発想や発見と感動、それを伝えたいという気持ちを尊重します。こどもが自らの力で、自らが考えた方法で思いを表すことを大切にします。疑問を持ったとき、自ら答えを探し求められる「探究心」。大人の常識にしばられない、こどもだけが持つ豊かで自由な「想像力」。自分の思い・気持ちをさまざまな手段で表現できる「創造力」。表現の経験を通して、これらのこころとちから、自立心や物事に柔軟に対応できる多様性は育ちます。こどもが自分の可能性を花開かせ、それを喜びとともに発信し、外の世界と交流していく。アートを媒体にした体験で、未来の社会を担う子どもたちを育みます。

アーキペラゴは、高松に拠点を置く非営利活動法人です。たくさんの個性ある島を子どもたちに例え、芸術士と呼ばれる芸術家を保育所・幼稚園に継続的に派遣し、子どもたちの表現をサポートする活動を行っています。ひとつひとつの個性を尊重し大切に育むこの活動は、近年注目を集めている北イタリアの「レヅジョエミア・アプローチ」という幼児教育に着想を得てスタートしました。高松市芸術士派遣受託の他、アーキペラゴ自主事業として現在7施設の受託外施設と直接契約を結び、高松市、坂出市、観音寺市、三豊市の私・公立保育園・幼稚園へと活動が広がっています。（平成27年度）

芸術士の活動の時間には、子どもたちひとりひとりを認め、伸び伸びと自由で楽しい活動を展開しています。幼い頃にアートに触れることの重要性が認められ、すべての保育所・幼稚園に「芸術士」が配属されることが私たちの理想とする未来の姿です。





なかの
中野保育所

どろどろからうまれること

まつお ゆみ
松尾 由美 芸術士

「きょうなんするん?」「どこいくん?」「僕んとこいつくるん?」「何もってきたん?」「今日どこでたべるん?」
近寄ってきてダダダダダとおしゃべりはじまります。
今日の予定を伝えると、ためいきまじりの「ふうん…。」
やっと順番が回って来た今日は
お庭いっぱい、どろんこ遊びです。
ブルーシートを頭からかぶり雨雨ごっこ
「雨の音が耳の横で聞こえるわー」
こんなにも楽しい園で
わたしもみんなと泥、絵具まみれになりながら
思う存分作る。感じる! 笑!

どろどろ活動からは、たまに争い事も勃発します。
ふたりの真ん中にひとりの子がいて、言い合いをぼんやり見つめます。「どうするかな?」「どうしようかな…?」
真剣な1対1を仲裁もせず見守るしかない時間の流れ。
絶対泣かない子とわんわん泣きながらの泥のかけあい。
こんないざごぎの後のことです。
どうの本人たちは
またくっついて、そして笑って「キャッキャッキャ」。
争っているとみていたのは私だけで
子どもたちは真剣にかかわり、引きずりません。
笑うだけで、仲直りには言葉もいらなようです。

そんな忘れがちな人としてのやりとりに心がキュン。
そしてわたしも…お話タイムへ…
いつも表現についていっしょに考えています
「これ なにすん?」「どなんしたらええ思う?」
「何に見えるかなあ?」
と大きな絵をぐるぐる回転
「あっ サメ見つけた!」「イカもおおる!」
大きくなっていく子どもち…関われる今を大切に、
こんな何気ないひとときに
いちばん幸せを感じます。



たか むろ
高室保育園

おおきなかたまり

ごうだ ともよ
合田 知世 芸術士

3年目となる、高室さんの土粘土の活動日。
足で踏んだり手でこねたり。自由に遊びが始まります。
おだんご、くまさん、りゅうぐうじょう、ひこうき…
細部まで凝ったものや、ドン!と大きさ1番のもの。
さまざまに展開されていきます。
土粘土の活動も回を重ねてきたので、新たな楽しみにと、
針金で作った骨組みを持って行きました。
まっすぐ立っているものや、動物の骨組みです。

「うわ〜、ぶろべらみたいや!」「ぶろべら〜」
作っていた飛行機に沿わせて骨組みを曲げ、自分の
作品を補強するツワモノも…。
そんな中、ある子が動物の骨組みを手に取り
「うまにする」と粘土をつけはじめました。
でも、なんだかピミョ〜な顔。馬づくりを終えて
次に彼が作ったものは、大きな塊。そして
「みて、どうじゃ!」と誇らしげな顔。私は思わず
「この馬と自動車、どちらが好き?」と聞きました。
「うーん。…じどうしゃ!」
小さく、でもはっきりと言った彼の言葉からは

「ぼく(のじどうしゃ)って、素敵でしょ?」
という声が聞こえてくるようでした。
他にも、大きな塊を作って
「きょうりゅう」「ケーキ」などと言う子どもたちもいます。
作られた塊は、彼らの分身のように感じました。
改めて、彼らと彼らの作ったものを受け止め、
寄り添う大事さを再確認する日となりました。



さか いで いち こう
坂出一高幼稚園

楽しさと自信の波
たに ゆき
谷 由貴 芸術士

子どもの頃、絵に自信が持てなくなり今だにそれがトラウマ…。この活動をしていると、よく耳にする大人の話。

「何で自信が持てなくなったか」に焦点を合わせることで、それと反対のことをすれば、過ごす時間に関係なく子どもと一緒に楽しみながら芸術士活動を続けていけそう！大きなヒントになっていった。

3歳くらい迄の子どもをみていると、自分がやっていることが最高！自信がない子どもなんていないのがよくわかる。ところがだんだん他の子と自分を比べて何を基準にして

か？勝手に自信喪失する子が出てくるから面白い。

そんな時、ちょっと勇気を出して描いた線や色を褒めてくれる人が身近に居たら…忽ち自信復活！でも、まだ少しの不安…そんな時自信満々の子に「何描いとんかわかん！」一言言われ手が止まり…。言っただって何を基準にして言ってるかなんてよく分かってないのね…。

絵には正解がないことを時間をかけて伝え、勇気を全力で認め、やっていることをニコニコ眺めていれば、子どもは

時間を忘れ自由にのびのび個性を發揮してくれる。

子どもの能力を信じ育てることは、大人が楽しく生きる糧になる。

周囲の大人が楽しんで子どもの個性を見守ることは、子どもたちにとって大きな自信と楽しさをもたらす波になる！

たか まつ ひがし
高松東幼稚園

子どもに委ねることの楽しさ
たに ゆき
谷 由貴 芸術士

芸術士として現在意識していること…それは子どもたちが本来備えもつ能力をどれだけ信じられるか？ということ。芸術士をはじめた当初、それまで自分のセンスと経験を信じ作品づくりをしてきた自分にとって、強烈な個性の塊である子どもたちと対峙することは至難の技。今思えば随分子どもたちの個性を無視していたかなあ…と反省しきり…。子どもが自由に描いた絵と、世間で上手いと言われる写真のように描いた絵を見比べた時、私にとって魅力的に感じられるのは子どもの絵！と自覚した瞬間、芸術士としての立ち位置が変わった。この園での活動は現在3年目、1人の子どもと制作で共有

できる時間は年に3時間程度、3歳児から関わっても3年で9時間、それだけ…。芸術士としての役割を考え悩んだ結果、自身の回答は…子ども1人ひとりの個性を見つめ、1本の線、1つの色から褒めること。実行していくことで子どもとの信頼関係が生まれ、わずかな時間がとても愛おしくなった。クラスごとの作品は、そのクラスの子どもの個性と成長の表現。子どもたちに委ねることで、どんどん自由度が増し子どもたちの解放感が伝わってくる。

1日違っても同じ作品にはならないであろう…その生きの良さがたまらない！



さいた 財田保育所

ちいさな芸術家の物語

はせがわ たかこ 長谷川 隆子 芸術士

3歳児の子どもたちにとって絵具や土粘土、芸術士との関わりは初めての出会い。月に1、2回のペースで「アートの日」として子どもたちはちいさな芸術家になります。活動に「絵本」を使うことがあります。子どもにとって絵本の世界は、身近であり、頭の中のパラレルワールドとつながっているようです。絵本を読むと何倍も何十倍も想像力や表現力が膨らみます。

バブルアート

ふーふー リスのようなほったたをふくらませ

子どもたちは めをまんまるくし
ぶくぶく ぶくぶく キラキラ のあわあわ
くんくん においをかいでみる
「絵本にでつつたぶどうのにおいがするー」
キラキラをそーっと つかまえてみる
ぶくんとはじめて しゅわっときえる
ほわあん シャボン玉の足跡がのこる
泡にあわをどんどのせて 虹色の光る山
「ぼーって変な音がした」くすくす笑う
きれいな模様にもーんな うっとり

ボディペインティング

絵具の服を 身にまとう
「エイ、ヤー！」ヒーローに変身
むなもとに♡をかくて ドレスアップ

現実と幻想の境界線が曖昧だからこそ、どこへでも行けるし、何にでもなれる。ちいさな芸術家の物語をたくさん紡ぎだしていきたいです。

さいた 財田幼稚園

あそびの名人

はせがわ たかこ 長谷川 隆子 芸術士

財田幼稚園は、静かな山の中にあり教室から田んぼや畑が見え、いつも心地よい空気が流れています。イノシシが近くまで降りてくる事もあるそう。豊かな自然に恵まれた環境でのびのびと成長している。
シャボン玉をつかまえる
紙をもって シャボン玉を追いかける
気持ちのよい風がヒューーとふいて
シャボン玉がぐわんと 空へまいあがる
「つかまえたー！」
まあいシャボン玉の足跡を みせびらかす
「ええなあ！」と言って みんなまた走り出す

フィンガーペインティング

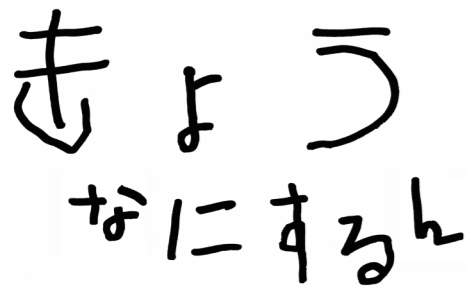
白い紙はまたたくまに 色であふれかえる
上へ下へ 右へ左へ 全身でかきなぐる
紙におさまらない好奇心は 手から腕、顔にも
手のひらに 筆で絵具を こちょこちょ
くすぐりたいとこぼれる 笑顔

つねんど

おきなおきなおき なんどのかたまり
「くさー」「たんぼとおんなじにおいする」
みんなの足で ふみふみ どすどす

ころころおだんご ぐりぐりと穴をあける
紙の筒をつなげて 子どもたちは大工さん
イノシシのおうちに みんなのテント

「壊しては つくり」「壊しては つくり」
瞬発力と発想にはおどろきの連続。子どもたちは、
面白い遊び方を 見つけた名人です。



参加芸術士

合田知世（インスタレーション・絵画）

長谷川隆子（油絵・彫刻・インスタレーション）

松尾由美（洋画）

谷 由貴（染織・美術家アシスタント）

参加施設

中野保育所

高室保育園

坂出一高幼稚園

高松東幼稚園

財田保育所

財田幼稚園

これまでの活動

平成21年11月 高松市内保育所への派遣がスタート

平成22年 7月 うみあかりプロジェクト/瀬戸内国際芸術祭2010

平成22年 8月 第1回芸術士派遣事業活動報告「芸術士のいる保育所」展/高松市美術館

平成23年 7月 高松琴平電気鉄道線100周年記念企画「コトデン×コドモテン」

平成24年 3月 第2回芸術士派遣事業活動報告「芸術士のいる保育所」展/高松市美術館

平成24年 4月 派遣先が保育所・こども園・幼稚園へと広がる。

平成24年 9月 リサイクルアートプロジェクト/高松市環境保全推進課

平成24年10月 アーキペラゴ活動報告巡回展/庵治観光交流館、三豊市財田町公民館

平成24年11月 講演会/三重県津市

平成25年 3月 講演会/京都造形大学こども芸術学科

平成25年 3月 第3回芸術士派遣事業活動報告「芸術士とこどもたち」展/サンポートコミュニケーションプラザ

平成25年10月 出張展示「えっ!授業の展覧会」/うらわ美術館

平成25年10月 第4回芸術士派遣事業活動報告「芸術士とこどもたち」展/高松市美術館

平成26年 3月 芸術士®商標登録

平成26年 5月 レッジョ・エミリア市視察訪問

平成26年 9月 公開ワークショップ・シンポジウム「芸術士と語ろう」/聖徳大学

平成26年 9月 自転車おしてくれてありがとうプロジェクト/高松丸亀町商店街

平成26年10月 シンポジウム「ARTが生み出す子どものチカラ」/東京都美術館

平成26年12月 第5回芸術士派遣事業活動報告「3,704色こども」展/丸亀町レッツホール

平成27年 2月 講演会/島根県津和野町

平成27年 3月 キャリア教育プログラム/善通寺一高デザイン科

平成27年 6月 敬心学園シンポジウム/日本福祉教育専門学校

平成27年12月 第6回芸術士派遣事業活動報告「きょうなにするん」展/高松市中央図書館

発行日 平成27年12月4日

発行所 NPO法人アーキペラゴ 芸術士事務局

〒760-8571 香川県高松市木太町 2705-1 1F

TEL 070-5351-7708

FAX 087-880-2674

http://geijyutsushi.archipelago.or.jp/

制作 芸術士

編集 太田絵美子、岩佐百合子、佐々木あずさ、松野礼子、鈴江利浩

本書記載の写真・文章等の無断使用を禁じます。

芸術士プラス派遣施設の
先生に聞きました！

印象に残っている 子どもの言葉

『 ママー 』

初めて会う芸術士さんに緊張気味の1歳児。
その中には ほか保育の子も居て「ママー、ママー」と大泣き中… あら、
これからどうなるのか？

芸術士さんが粘土を小分けにする。「ママー」が一瞬止まる。
じと見つめている。これは粘土に触らせてもらう。少しだけ「にこっ」でも
我に返って「ママー」

そんな中で粘土が舞うです。丸まったり、ねじらねたり… ずいぶん
こままてくれは、みんな触りにくううう。手にとると楽しくてたまら
ないと踊りながらその喜びを表現する子も。

保育室が熱気をおびてくる。

そして、いつの間にか「ママー」の音が途切れていた。
初めての人・素材・感触 など。一歳児のワクワクは、時に
ママと同じ位 魅力的なのだ！

中野保育所

『 なにつくるー ！！ 』

芸術士さんが用意してくれた土粘土、数人の女の子が集まって粘土を手に取り、丸めたり
伸ばしたり・・・『おだんごやさんしよう』『ぶつちよやさんはず』『そしたらだんごやさ
んの隣にアイスクリームやさんで・・・』おしゃべりが止まりません。お友だちとのおしゃ
べりの中からいろいろな発想が生まれて来るようです。

高室保育園

『 待ってました！ 師匠！！ 』

ある朝、子どもたちが自由に遊んでいる時間に部屋の前を通りがかる
谷由貴先生を見つけた年長組の男の子が一言。「待ってました！ 師匠！！」
大興奮で部屋の中に呼び入れ、自分か作った物を次々に見せまくる。
「谷先生は面白い描き方しかいっぱい教えてくれるけん 師匠なんよ」と
と誇りに話を。子どもたちにとっては、私達よりもワラワラ上^{特別な}の存在なんです。

高松東幼稚園

『 あっ、しっぽが・・・ 』

『森の動物物』と題した共同作品を製作中。
うさぎを描いた女の子。切り抜く時に、しっぽを切り取って
しまいました。思わず落した言葉に、芸術士の先生は、
「大丈夫よ。貼ったらくっく」と…。

落ち込んでいた女の子の表情は、一気に明るくなり、

素敵はうさぎが完成！

何気ないことですが、背中を押してくれる人の存在の
大切さを感じました。

坂出一高幼稚園

『 あれは（バブル）水のひやり？ 』 朝、芸術士の日は？

子供達にとっては初めての芸術士さんの活動。「バブルアート」では
いともたけ飛んでいるシャボン泡が天井上に落ちると不思議な感覚。
魔法のように次々出ている道具にその都度目を輝かせ、あんな滑らかな
時間が過ぎていきます。「泡のひやりはひやり」「きこまらしてまわーい、
「カニにたれたまわーい」「泡のあまのこ」「つるつるがにたれたまわーい」
子供達の「へー」想像は無限！ 先生が引き出していく先生の
器用なスキルは職員も目をみみられ、うらやまはる一日です。
「今夜いくん。」「また来いよ。」先生のワカラずの顔をとても楽しみに
している子供達です。

財田保育所 / 財田幼稚園

可能性の育み
芸術士®

